腎・透析内科プログラム

【研修(カリキュラム)の特徴】

卒後臨床研修で求められる事は、

１）幅広い経験を積んで患者さんを全人的に診る事のできる能力を培う事　２）厳しい医療情勢の中で勝ち抜いて行くための高度な専門的知識・手技を身につける事の両立です。当科では 4 年目以降は今までに修得した内科一般の知識に加え、腎臓内科・透析分野のより専門的な研修を行い、研修終了後は内科認定医に加え腎臓専門医、透析専門医の資格を取得できるプログラムを組んでいます。つまり当科の研修修了者は一般内科医、腎臓内科医、透析医のいずれの形でも活躍できるように考慮されております。内科専門医、腎臓専門医、透析専門医はいずれも厚生労働省によって標榜する事が認められている公式資格であり学会ホームページにも掲載されており、将来就職面や収入面等でも有利に働く事は確実と考えられます。また研修関連施設には当科より多くの優秀な指導医が出向していますので、当科にて腎臓内科医・透析医として基本的な知識や手技を身につけた後、早期より関連病院へ出向して頂き、更に多くの臨床経験を積んで頂く事や臨床研究を行う事も可能です。

【研修目標】

［到達目標］

１．尿・血液検査から診断に至るまでの計画を立て、実行できる。
２．超音波検査・単純Ｘ線検査等非侵襲的検査が施行・読影できる。
３．腎生検の適応を決定し、指導者の監督の下、自分で施行できる。
４．代表的腎疾患の組織学的診断を行える。
５．各種腎疾患の治療計画を立案し、実行できる。
６．末期腎不全に対し、血液透析、腹膜透析、腎移植等の治療法を適切に選択し管理できる。
７．血漿交換、免疫吸着等血液浄化法の原理について理解し、管理できる。
８．透析用内シャント作成術に於いて助手を務められる。
９．透析用内シャントの穿刺に習熟する。
10. 透析用ブラッドアクセスのカテーテルを指導者の監督の下、自分で挿入できる。
11. 透析患者の合併症に関して理解し、診断・治療できる。
12. 水・電解質・酸塩基平衡異常の病態を理解し、治療計画を立て実行できる。

【レジデントＡ（卒後３年目）カリキュラム】

原則として当院勤務とし、指導医の下、病棟業務に携わり、上記目標達成に向け専門的研修を行います。

レジデントＡ（卒後３年目）には内科専門医取得に必要な症例を経験して頂きます。当科では指導医が学ぶべき疾患の経験状況、手技の習得状況等を考慮して適切な症例の割り振りを行い指導いたします。

【レジデントＡ（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、糖尿病・内分泌・代謝内科、泌尿器科、循環器内科、超音波センター、感染制御部のいずれかで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【レジデントＢ（卒後４年目）、レジデントＣ（卒後５年目）カリキュラム】

レジデントＢ・C(卒後 4,5 年目)は、当院の腎・透析内科医としてより専門的な研修を行います。尚当科は下記に示す研修協力施設と緊密な協力関係を築いています。腎臓内科医・透析医として必要な知識や手技を獲得している先生方にはこれら研修協力施設で研修を受けて頂く事も可能です。これら研修関連病院の多くには、当科より経験豊富で優秀な指導医が出向していますので、内科一般の経験は勿論の事、腎臓内科・透析医として更に専門的な研修が可能な他、これら施設で臨床研究の指導を受ける事も可能です。

以上のレジデントA, B. C期間に内科認定医・腎臓専門医・透析専門医の取得も可能です。

また腎・透析領域で研究を希望する場合は、卒後３年目より夜間大学院への進学も可能です。

卒後１年目	卒後２年目	卒後３年目	卒後４年目	卒後５年目
臨床研修		レジデントＡ	レジデントＢ	レジデントＣ
内科全般のプログラムで研修			腎･透析内科プログラムで研修	
			腎･透析内科医として当院勤務 もしくは研修協力病院勤務	

↑ 内科認定医取得　　↑ 腎臓専門医と透析専門医取得

【研修協力施設】（下線病院は卒後３年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

あおい病院、大阪厚生年金病院、JCHO 大阪みなと中央病院、川崎病院、公立学校共済組合近畿中央病院、甲南病院、済生会兵庫県病院、三田市民病院、住吉川病院、宝塚市立病院、田仲北野田病院、虎の門病院、原泌尿器科病院、三菱神戸病院、明和病院、淀川キリスト教病院

【指導医】

主任教授：中西　健（指導責任者）　准教授：倉賀野　隆裕　講師：蓮池　由起子
講師：長澤　康行　助教：名波　正義　助教：木田　有利　助教：海邉　正治
助教：八尋　真名

【研修統括者】

助教：木田　有利

【問い合わせ先】

腎・透析内科：木田　有利
TEL: 0798-45-6521　E-mail: ari-5910@hyo-med.ac.jp